

2012年9月2日。

横浜の大さん橋ホールで第4回神奈川県大会「横浜カップ2012《が開催されました。
横浜北支部からは選手33名が参加し、10名が入賞しました。

幼年の部 優勝 渡辺民生



試合初挑戦でいきなりの優勝。

デビュー戦とは思えない鋭刺とした動きは、常に相手を圧倒。

稽古では年上でも臆することなく向かっていく負けん気で一気に頂上まで駆け上がった。

いつも熱心に稽古する彼は、慢心することなく更に強くなるに違いない。

幼年の部 準優勝 椎橋景瞳



「決勝で待ってるぞ！《

先に決勝を決めた同門の渡辺民生に発破をかけられた椎橋が燃えた。

毎朝のランニングで培ったスタミナによる怒涛の攻撃で決勝進出。

決勝では涙を飲んだが、渡辺とのライバル対決はこれからも続くだろう。

小学1年の部 優勝 田村周聖



センター北の暴れん坊が昨年の金太郎杯に続いて優勝。
終始攻め続ける闘争本能は相手の心身をなぎ倒すほどの勢いがある。
決勝で対戦した松本とは同門のライバル同士。
ライバルの存在が彼を更にレベルアップさせることだろう。

小学1年の部 準優勝 松本巨輝



今まで出場する大会のほとんどで三位に入賞していた松本が初の決勝進出。
決勝でこそライバルの田村に初優勝を阻まれたが、今大会は技に正確性が増し、
着実に相手にダメージを与えながら勝ち上がった。
元々の高い身体能力を持つ彼が、全国デビューする日も近い。

小学2年の部 準優勝 赤平真一



今年から試合に出始めた赤平が一気に決勝まで進出。
素早いフットワークと圧倒的な突きの連打は相手を全く寄せ付けない。
決勝では緑帯の相手に果敢に攻め込むも端が2本しか上がらず、延長戦で僅差の判定で優勝を逃した。
この悔しさが彼を更にパワーアップさせるはずだ。

小学5年輕量級 準優勝 西田聖惟



努力の男が初の決勝進出を果たした。

稽古では決して手を抜かない西田だが、体重が軽い為、体格差で押されるとなかなか結果が出なかった。だが今大会では今までの稽古で培った実力が開花。圧倒的なスピードとスタミナで一気に決勝に進出。弛まぬ努力は彼を更なる高い舞台に連れて行ってくれるだろう。

小学5年重量級 準優勝 菅和志



準優勝の喜びなど彼には無かった。

極真祭を見送って優勝のみを目標として今大会に出場。圧倒的強さで勝ち上がる姿は誰もが優勝を予想した。

だが決勝でまさかの技有を奪われ判定負け。

悔しさに打ちひしがれた彼は更に必死で稽古を積むだろう。

運命はどれだけ彼を強くすれば気が済むのか。

小学5年重量級 第三位 田村亮大



相手の隙を逃さず強力な下段を蹴り込む。まったく危なげない戦い方で準決勝まで進んだ。

常に自分のペースを崩すことのないスタイルは相手選手にプレッシャーをかける。

準決勝では優勝した相手を追い詰めながらも旗が2本しか上がらず体重判定で敗れたが、悔しさを表情に出さず試合場を降りた。

その姿は小学生ながら武道家と呼ぶに相応しいものだった。

中学2・3年男子重量級 優勝 菅優作



横浜北支部の怪物中学生が久しぶりの優勝。
中学2年でありながら約80kgの体格は驚異的。
しかも今大会は自分より更に体格の大きな選手と対戦したが、軽量級を思わせるスピードで相手を翻弄し、一気に優勝を決めた。
だが、全国の頂点を目指す菅にとって今大会は通過点。
今後、どれほどの怪物に育つのか怖ろしいかぎりだ。

高校2・3年男子軽量級

優勝 日比野英翔



センター北道場が誇る高校生選手が初優勝。
こつこつと地道に積み重ねた稽古がようやく実を結んだ。
世界大会に出場している姉を間近で見ていた彼は、このくらいでは満足しない。
次の目標は国際大会だ。

✕ 閉じる